皇室、皇位継承儀礼への理解深める機会に

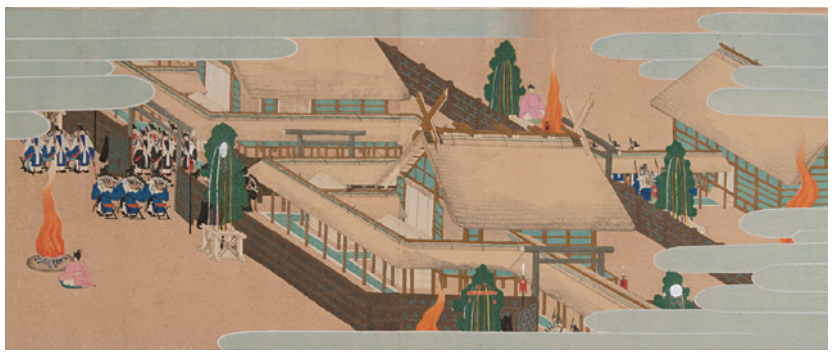
特別展「即位礼と大嘗祭」開催にあたって

研究開発推進センター長 大島信生

令和元年五月一日、天皇陛下が第一二六代の天皇として御践祚（御即位）になられた。御譲位による皇位継承は、文化十四年（一八一七）の光格天皇御譲位以来で、二百二年ぶりとなる。皇位継承にあたって様々な儀式・行事が行われるが、十月の即位礼正殿の儀、十一月の大嘗祭はその中心である。

本学は「小原家文庫資料」（寄贈）や「鈴鹿家資料」（寄託）など、即位礼や大嘗祭に関わる貴重な資料を有しており、昨年九月から十月にかけて京都の細見美術館を主会場にして開催された「京都の御大礼」展に多くの資料が出陳された。

相前後して本学においても御即位に関わる展覧会を開催したいという声が研究開発推進センターから上がり、当時の清水潔学長のお勧めもあり、特別展「即位礼と大嘗祭」を大学主催で行うこととなった。展覧会は、前期展「即位の御儀―皇位継承のすがた―」（五月三十一日～八月三十一日）と後期展「大嘗祭―今に伝わる古（いにしえ）の祭儀―」（十月一日～十二月二十一日）の二期にわたって開催し、皇位継承儀礼に関する貴重な資料の一般公開を行っている。


今上天皇御即位大嘗祭絵巻（神道博物館蔵）

大嘗会図（小原家文庫）

前期展の開幕にあたっては、五月三十日に内覧会を催した。多くのメディアに取り上げていただき、その関心の高さを実感することができた。「東山天皇御即位式・霊元上皇御譲位行列図屏風」（個人蔵、寄託）、「御即位式之図」（加藤隆久氏所蔵）、「黄櫨染御袍（孝明天皇御料）」（平安神宮所蔵）などの貴重な資料を出陳することができた。前期展は八月末をもって無事に終了した。

十月一日から始まる後期展は大嘗祭が中心テーマである。これには本学に寄託されている「鈴鹿家資料」から、斎田の卜定のための「亀甲」（元文三年）や「文政元年度　悠紀・主基抜穂」「嘉永元年度　悠紀・主基抜穂」などの貴重な資料を展示する予定である。

本学「建学の精神」の根本である「賀陽宮邦憲王令旨」に、「神宮皇學館教育ノ旨趣ハ、皇国ノ道義ヲ講ジ、皇国ノ文学ヲ修メ、之ヲ実際ニ運用セシメ、以テ倫常ヲ厚ウシ、文明ヲ補ハントスルニ在リ」とあるように、我が国の歴史・伝統を究明することは本学の使命である。我が国の歴史は皇室とともにある。皇位とは何か、そしてどのように皇位が継承され、どのような儀礼・儀式が即位時に行われてきたかを明らかにすることは、本学の「建学の精神」にかなう重要な研究テーマの一つである。本特別展を通して、皇室、皇位継承儀礼への理解が深まることを切に願う次第である。

なお、本特別展にあたり、御協賛をいただいた熱田神宮様をはじめ、協力・後援を賜った関係各位に、厚く御礼を申し上げたい。

前期展には三四七四名が来場

十月一日から後期展「大嘗祭―今に伝わる古（いにしえ）の祭儀―」を開催

天皇陛下の御即位を記念し、本学佐川記念神道博物館にて開催中の特別展「即位礼と大嘗祭」の前期展「即位の御儀―皇位継承のすがた―」（五月三十一日～八月三十一日）が盛況のうちに終了した。期間中の来場者は三四七四名。即位礼の歴史や儀式の変遷を四章に分けて構成した本展では、天照大御神が孫の瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）に与えた、皇室の始まりをあらわす「神勅（しんちょく）（おことば）」【第一章「皇室の源流」】や、唐風（中国風）の装束が着用されていた平安時代の即位礼【第二章「整備された皇位継承儀礼―平安時代―」】、約二百年間途絶えていた即位礼・大嘗祭が揃って執り行われた貞享四年（一六八七）の第一一三代・東山天皇即位式の様子【第三章「即位礼の延引・大嘗祭の中絶から朝儀の復興へ」】、唐風の装束等が廃止されるなど新儀が取り入れられた近・現代の儀式【第四章「近代から現代へ―明治の改制・登極令に基づく儀式」】等、時代背景や流れがわかりやすい配列で好評を博した。オープンキャンパスの際、解説案内をした吉本祐さん（神道学科四年）は「安元三年に焼失してしまった大極殿での、即位式が最も盛大に行われていた頃の調度を知ることができる『文安御即位調度之図』や、今は環境省の絶滅危惧種に指定されている植物で染められた青色御袍（孝明天皇御料・平安神宮所蔵）を間近で見られるなど、私自身とても勉強になりました」と話し、学生にとっても有意義な学びになったようだ。

貴重な資料が揃った特別展。陳列台は檜であつらえた

十月一日からは後期展「大嘗祭―今に伝わる古（いにしえ）の祭儀―」が始まる。研究開発推進センター・佐川記念神道博物館の浦野綾子助教（学芸員）は「高校生から研究者まで、幅広い層の方が無理なく理解を深められる内容となっています。また、後期展では桜町天皇大嘗祭の国郡卜定で実際に使われた《亀甲》をはじめとして、前期展と同様に貴重な実物資料が一堂に会するまたとない機会です。ぜひ足をお運びください」と話す。

皇學館学園報
第80号
令和元年９月

■注目記事

２面
小学校外国語教育研究会 in 三重を開催
地域連携　３面
活動地域が拡大中！
令和元年度CLL活動
グローバル　４面
ヨーク大学・夏期語学研修体験レポート
カルチャー&スポーツ　５面
柔道部がギリシャ代表と合同練習
６・７面
駅伝競走部応援ガイド
高中トピックス　８・９面
中高でオープンスクールを開催 ほか
カルチャー&スポーツ　10面
心游舎ワークショップ
「御花神饌づくり」の体験
インフォメーション　11面
平成30年度収支決算報告
教学振興会平成30年度決算報告
アクティブスチューデント　12面
高校・中野優子さんが貝の研究で
世界最大の科学コンテストに出場 ほか

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大　学
大学院 専攻科 | 文学部　教育学部　現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201㈹　FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
［高校］〒516-8577　TEL 0596-22-0205㈹
［中学］〒516-8588　TEL 0596-23-1398㈹

倉田山春秋

「拾遺和歌集」に「春はただ花のひとへに咲くばかりもののあはれは秋ぞまされる」（雑下・読み人しらず）という歌がある▼春はただ花が一斉に咲くだけで、情趣は秋のほうが勝っている、という意味だ▼そう言われてみれば、現代でも、読書の秋、スポーツの秋、実りの秋、食欲の秋、天高く馬肥ゆる秋というようにさまざまに秋を表現することばがある▼中でも実りの秋は神道のお祭りと密接に関係していて、神嘗祭（かんなめさい）や新嘗祭（にいなめさい）がある。そして、今年は大規模な新嘗祭、という意味の大嘗祭（だいじょうさい）が十一月十四日に執り行われる▼古来、国が栄えるということは、五穀の豊穣、とりわけ米が多く実ることであった。大嘗祭では新天皇が神様に食物（おもの）を供え、自らもこれを召し上がる。一世一回限りのお祭りである▼日本の食料自給率（カロリーベース）は平成三十年度で三七％だという（農林水産省調べ）。他の先進国と比べても、アメリカ一三〇％、フランス一二七％などには到底及ばず、先進国では最低の水準となっている▼貿易の問題もあって自給一辺倒とはいかないが、実りに感謝しながら味覚の秋を楽しみたい。

「外国語科」全面実施に備え、指導のあり方を探る

小学校外国語教育研究会 in 三重

小学校外国語教育研究会 in 三重（主催／小学校英語教育学会三重支部・三重県小学校英語教育研究会）が五月二十六日、本学で開催され、全国各地から小学校を中心に小・中・高・大の教員や指導主事等行政関係者、教員志望の学生等、一七一名が参加した。講演には、文部科学省初等中等教育局視学官の直山木綿子氏を招き、「指導と学習評価」という演題でご講義いただいた。

来年度より小学校では新学習指導要領が全面実施され、高学年を対象に「教科としての英語」が年間七十時間、中学年を対象に「外国語活動」が三十五時間実施される。そうした背景の中、今年度の研究会は「新学習指導要領全面実施へのスムーズな移行」をテーマに、午前は「授業づくり」、午後は「評価」に焦点をあてたワークショップや実践報告、講演が行われた。

実践的な内容とあって関係者の関心は高く、会場は満席となった

最初に、本研究会のスタッフでもある三重県内の小学校教員十四名と川村一代准教授による「児童が意味を考えながら行うゲームの紹介」があった。次に、武部八重子教諭（岐阜市立長良東小学校）からワークショップを交えて〈Small Talk〉や文科省教材『We Can!』の活用例が紹介された。午後は、山川拓教諭（京都市立九条塔南小学校・前京都教育大学附属桃山小学校）より小学校におけるパフォーマンス評価の実践が報告され、最後に直山視学官のご講演があった。

参加者からは、「新学習指導要領に沿った指導法や評価についての理解を深めることができた」「本研究会を通して得たことを明日からの自分の授業で実践したい」というお声を多数頂戴した。本研究会のスタッフや参加者の中には本学出身者がたくさんおり、久しぶりに訪れた母校を懐かしむ姿も見られた。

文責／川村一代（コミュニケーション学科准教授・小学校英語教育学会三重県理事・三重県小学校英語教育研究会会長）

四氏が名誉教授に就任

７月８日に執り行われた名誉教授称号授与式

長きにわたり本学の教育・研究の発展に寄与し、多くの功績を上げられたとして前学長の清水潔氏、特別招聘教授の櫻井治男氏、元文学部コミュニケーション学科教授の山田やす子氏、同児玉玲子氏に名誉教授の称号が贈られた。

清水氏は昭和二十三年、三重県生まれ。本学文学部国史学科を卒業後、文学研究科国史学専攻修士課程を修了し、本学文学部助手に採用。その後、助教授、教授に昇任し、平成二十三年四月に学長に就任。以後、本年三月に任期満了により退任されるまでの八年間、学長として本学に果たされた貢献の数々は計り知れない。また、神社界、学会、地域においても要職を歴任されている。

櫻井氏は昭和二十四年、京都府生まれ。本学文学研究科修士課程国文学専攻修了。学生部長、社会福祉学部長など要職を歴任され、また国際交流委員長として本学の国際化に尽力されてきた。宗教学・宗教社会学・神社祭祀学の研究に長年努められ、平成三十年には民俗学・博物学の優れた研究者に贈られる南方熊楠賞を受賞されている。

山田やす子氏は昭和二十八年、愛知県生まれ。南山大学大学院文学研究科独文学専攻博士課程を単位取得満期退学。ドイツ語・ドイツ文学に関する著書、共著、共訳書等多数。専門科目やゼミにおいて熱心に指導され、多くの卒業生から慕われている。また、市町の教育委員や男女共同参画基本計画策定委員会会長等を歴任するなど学外においても活躍された。

児玉玲子氏は昭和三十年、岐阜県生まれ。名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程を単位取得満期退学。社会福祉学科主任、コミュニケーション学科主任として学科運営に貢献。専門である英語学・英語教育学の研究、教育に熱心にあたられ、数多くのゼミの学生を輩出したほか、近年はケント大学との国際交流や夏期短期留学の引率指導にも尽力された。

卒業生奮闘中！

子川　明治さん

新田高等学校・新田青雲中等教育学校非常勤講師、館友会愛媛県支部長
国文学科　第六期（昭和四十六年三月）卒

最近、地元紙に短歌のことで人物紹介をされました。倭は言霊の幸ふ国、そんな思いを強くしています。若い頃十年毎に新しいことに挑戦すると決め、短歌を作り十年近くになります。地元紙に拙作を発表しているうちに愛媛新聞短詩型文学賞の短歌部門で年間賞を受賞しました。

悠久の時が穿ちし石の笛渚に吹けば喨々と鳴る

授賞式では代表で謝辞を述べ、海で見つけた石笛も吹き多くの人に聞いていただきました。受賞を機に斎藤茂吉らが結成した日本歌人クラブに推薦され、「現代万葉集」にも掲載されました。今春、全国紙にも思い切って応募すると、元宮中歌会始選者の岡野弘彦先生が講評付きで先頭に載せてくれ、二カ月後にも選に入り驚いています。大学で千田憲先生や澤潟久孝先生に万葉集を学んだことが今に繋がっているのだと思っています。

振り返ってみますと、大学で合気道に打ち込んだことがアメリカの姉妹校での演武のきっかけとなったり、書道を履修したことで生徒の卒業証書の名前書きに長年携わることができました。五十歳で始めた俳句も二十年になります。新しい形態の中等教育学校を作る命を受けた際、弓道も授業に取り入れることになり、教頭と顧問を兼務し三段まで取得。時々アメリカ、ドイツの姉妹都市からの訪問客にも教え喜んでいただいています。

いろんなことを継続しながら新しいことを始めていくので中途半端は否めませんが、次の十年に向けて何をするか、決まりました。篠笛の音色に魅せられ先日買い求め、音出しに励んでいます。このような楽しむ人生の根幹を作ってくれた伊勢の海と山と皇學館大学に感謝しています。

学生スタッフが大活躍
オープンキャンパス2019

リアルな学生生活がわかる学生Cafe

今年も恒例のオープンキャンパスが、「Hello! New me 出会おう! あたらしいわたしと」をテーマに開催されている。６月９日「大学発見DAY」を皮切りに、７月13日「学校見学＆入試説明会」、７月14日「学び体験DAY」、８月８日「未来発見DAY」と開催され、のべ2550名（生徒1718名、付添832名）にご参加いただき、本学の「学び」に触れていただいた。講義では、神社と動物のお使い（神使）の関係性を学んだり（神道学科）、体験型授業として、子どもたちが糸電話遊びの中から能動的に学ぶプログラム（教育学科）など、さまざまな専門性の高い講義が行われた。

また、各回において学生スタッフの活躍は目覚ましく、学生イベントの企画、参加者誘導やキャンパスツアー、学生カフェなど、笑顔を絶やさずに頑張ってくれた。他にもオープニングでは、雅楽部、よさこい部「雅（みやび）」、アンサンブル部の演舞・演奏。ボランティアルームの活動報告や、地域社会研究会「宇治山田の和紅茶」の試飲販売、軽音楽部JAZZの学食でのランチタイムコンサートなど会場を大いに盛り上げてくれた。参加者アンケートでも、「先輩が優しく相談に乗ってくれた」「入試のアドバイスをもらえた」など、非常に学生スタッフへの評価が高かった。

次回「大学祭同時開催DAY」は10月26日㈯を予定している。学生のイキイキとした笑顔を感じていただきたい。

令和元年度
フィールドワーク一覧

学科	引率教員	日　程	目的地・方面
国内			
神道	加茂　正典	9/9㈪～9/12㈭	四国
	黒田　宗篤	9/10㈫～9/13㈮	奈良・京都
国文	大島　信生	9/10㈫～9/13㈮	福岡・佐賀
	齋藤　平	9/11㈬～9/14㈯	岩手
	田中　康二	9/9㈪～9/12㈭	東北・東京
	中川　照将	9/11㈬～9/13㈮	京都
	岡野　裕行	9/8㈰～9/12㈭	東京
	小堀　洋平	9/10㈫～9/13㈮	群馬・東京・神奈川
国史	上野　秀治	9/9㈪～9/12㈭	東京
	遠藤　慶太	9/9㈪～9/12㈭	広島・松江・出雲
	岡野　友彦	9/10㈫～9/13㈮	信越
	多田　實道	9/8㈰～9/12㈭	中部・関東
	松浦　光修	9/10㈫～9/12㈭	鹿児島・山口
コミ	桐村　喬	9/4㈬～9/7㈯	北海道
教育	中松　豊	8/5㈪～8/12㈪（台風のため8/16㈮まで延長）	小笠原諸島
現日	富永　健 橋本　雅之 岩崎　正彌	9/9㈪～9/12㈭	東京
海外			
国文	上小倉一志 松下　道信	9/8㈰～9/11㈬	洛陽・北京
国史	谷口　裕信 堀内　淳一 長谷川　怜	9/8㈰～9/12㈭	西安・フフホト
コミ	豊住　誠 川村　一代 クリストファー・メイヨー 玉田　貴裕	9/7㈯～9/11㈬	シンガポール
	外山　秀一 髙沢　佳司 中山　真	9/4㈬～9/8㈰	大韓民国

3活動を継続実施
令和元年度チャレンジプロジェクト

今年度の「チャレンジプロジェクト」は３件が採択された。いずれも利用者から継続実施を求める声が多く寄せられたプロジェクトで、地域貢献、学生の教育実践力向上につながっている。

三重県総合博物館での実験教室・小中高での出前講座
サポート教員／中松　豊 教授
代表／川端あづさ（教育学科４年）

地元の食材を、知ろう、作ろう、食べようプロジェクト
サポート教員／駒田聡子 教授
代表／加藤謙太（教育学科３年）

本を活用して人と本・人と人をつなげるプロジェクト
サポート教員／岡野裕行 准教授
代表／岡村真衣（国文学科３年）

名所旧跡、伝統文化の魅力発信をめざして
令和元年度おかげキャンパスプロジェクト

外国人観光者に対する伊勢志摩の観光資源の発信
教員／櫻井治男・田井健治
実施期間／令和元年５月27日～令和２年１月31日

伊勢志摩の観光資源の魅力を明らかにし、外国人観光者に対して広く発信。参加学生にとっては地域の魅力発見、語学力の向上、冊子の編集・刊行についてのノウハウ獲得などの教育効果が期待できる。

「八雲琴」の継承を通じた地域神社の活性化プロジェクト
教員／板井正斉
実施期間／令和元年８月１日～令和２年２月29日

神職課程履修学生を中心に継承の危ぶまれる「八雲琴」の演奏技術の継承と「八雲琴」の奉奏による地域神社の活性化の可能性を検証する。

９件の受託研究を実施

受託研究とは学外諸団体等から研究・調査等の委託を受け研究を行い、その研究成果を委託先に報告するものである。

平成30年度は２市３町１民間企業から９件、総額およそ１千万強の資金提供及び研究委託を受けた。地域のシンクタンクとしての機能を一層高め、産官学の連携強化、研究を通じ社会貢献を図っていく。

平成30年度　受託研究報告

◆**運動効果検証及びルート検証業務**
【研究担当者】小木曽一之
【契約相手先】伊勢市

◆**産学官連携日本酒プロジェクト**
【研究担当者】千田良仁 他１名
【契約相手先】明和町

◆**伝統文化プロジェクト**
【研究担当者】板井正斉
【契約相手先】明和町

◆**下外城田地区明るい未来づくりに関する調査研究業務**
【研究担当者】池山　敦
【契約相手先】玉城町

◆**ICT機器を活用した小中学校授業実践研究**
【研究担当者】中條敦仁 他３名
【契約相手先】伊勢市

◆**鳥羽市地域共生社会推進事業アドバイザー等業務**
【研究担当者】板井正斉
【契約相手先】鳥羽市

◆**明和町こどもの居場所（こども食堂）プロジェクト**
【研究担当者】灰谷和代
【契約相手先】明和町

◆**体重減少（減量）及び減量達成後の体重再増加（リバウンド）予防を含めた減量プログラムの開発**
【研究担当者】片山靖富
【契約相手先】日本特殊陶業㈱

◆**地域連携日本酒プロジェクト**
【研究担当者】千田良仁
【契約相手先】南伊勢町

地域連携 Regional Collaboration

活動地域が拡大中！
令和元年度ＣＬＬ活動

五年目を迎えたＣＬＬ（Community Learning Labo）活動が対象地域をさらに広げ、盛り上がりを見せている。

平成三十年度までは文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」の取組みの中で、連携する三市五町（伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、明和町）を活動地域として展開してきたが、令和元年度からは本学独自の学修プログラムとして継続して実施され、フィールドを三重県全域に拡大。早くも名張市と連携した新プロジェクト（下部参照）も動き出した。九月時点で新規五、継続二十の計二十五活動が登録されており、行政や地域住人と連携を深めながら地域の課題解決に取り組んでいる。左記に今年度ＣＬＬ活動を掲載する。

令和元年度　CLL活動

新規
- **伊勢やまだ地方創生まちづくりゼミ**…伊勢市の山田（中心市街地）を中心に、まちが抱えている問題を解決すべく、課題の検討、調査、提案、実施、検証を行っていく。
- **だんだんお花畑プロジェクト in 玉城町**…里山周辺に点在する遊休農地を活用した秋播き春咲き花のガーデニングコンテストと関連イベントなどの企画・運営を行う。
- **ばりっ子会議から市政への提言PJ**…子どもたちの話し合いに加わって、子どもたちの考えを引き出して意見としてまとめていき、名張市長への提言につなげていくサポートをする。
- **The Histories of Ise 行政文化資源の利活用**…行政が有する文化資源『伊勢市史』の利活用を考える。
- **宿田曽おかえりみこしプロジェクト**…南伊勢町宿田曽地区の「宿田曽神祭・港まつり」で行われなくなった「子供みこし」を本プロジェクトにより復活させ、地域コミュニティーの維持や持続可能性について学ぶ。

継続
- 皇學館みらい対話団　●防災のための大湊地域資源発掘プロジェクト
- 南伊勢町UAV（ドローン）防災活用プロジェクト　●度会カフェリョクプロジェクト
- 伊勢シーパラダイス体験アクティビティ開発プロジェクト
- TMMF（玉城ミュージックモンスターフェスティバル実行委員会）
- 産学官連携日本酒プロジェクト　●あばばい ―伊勢志摩国立公園学生部会―
- 宇治山田商業高校課題研究（商品開発）サポーター
- みんなの声を聞くには?プロジェクト
- 伊勢市地域福祉計画・活動計画に関するリサーチ及びコミュニケーション、地域カルテ作成　●伊勢おはらい町防災プロジェクト
- 着ぐるみ（伊勢まいりん）を使用した伊勢市観光事業のPR活動
- 子どもと家庭の応援団　●新聞カフェ　●伊勢おもてなしヘルパープロジェクト
- 「広報いせ」特集記事制作プロジェクト
- TMKミライデザインPJ（玉城町下外城田明るい未来推進プロジェクト）
- 南伊勢 ドローンによる空家対策プロジェクト
- 南伊勢地域連携日本酒プロジェクト

ＣＬＬ活動レポート
子どもの声をカタチに
ばりっ子会議から市政への提言ＰＪ

名張市ＣＬＬ活動は、名張市の「子ども条例」に定められた、市長が子どもの意見を求めるために開催される子ども会議（以下、「ばりっ子会議」）に学生が参加し、その活動をサポートするものである。これは、昨年度、教育学部学生による教育学会の活動として実施し、「ばりっ子会議」からの市長への提言が地元の新聞に取り上げられるなど、一定の成果を収めた。そこで、本学の地域連携推進室と名張市を交えて活動内容の確認や今後の課題を整理したところ、ＣＬＬ活動の三つの目的を達成する見通しが持てたことから学部横断的な広報によって学生を募集し、ＣＬＬ活動として取り組むことになった。

今年度の「ばりっ子会議」は公募で集まった小学一年生～中学一年生の男女四十四人とジュニアリーダー数名とで構成され、長年、市から委託された「子どもをよく見て（Ｍ）、言うべきことは言って（Ｉ）、話をよく聞いて（Ｋ）」と呼び掛けるＭＩＫ（マイク）運動推進委員会とともにＣＬＬ活動の学生がその活動をサポートする。子どもたちは、「ばりっ子会議」が主催する十一月の「ばりっ子モール」の企画・準備・運営に夢中であることから、学生がいかに子どもたちから「市長への提言」を十月までに引き出すことができるか、毎回の「ばりっ子会議」の様子をもとに今後のサポートのあり方を討議し、現在、順調に進行している。

教育学部准教授　山本智子

ばりっ子会議メンバーの子どもたちから意見を引き出し、まとめ、市長へ提言できるようサポート

アカデミック Academic

令和元年度科研費に四研究が採択

文部科学省が所管する科学研究費助成事業（通称「科研費」）に、今年度、本学の四研究が採択された。新規の採択率が三割を切る国内最大規模の競争的資金制度である「科研費」は研究者自らの自由な発想に基づく研究の推進を目的としており、人文社会科学から自然科学までのすべての分野におけるあらゆる学術研究が対象。税金を財源とするためピア・レビュー方式（専門分野の近い複数の研究者による審査）によって厳しく、かつ高い透明性をもって評価される。採択された研究テーマと代表者は左表の通り。

令和元年度　科研費新規採択課題一覧（平成30年度申請）　※課題番号順に掲載

	研究課題名	研究種目	研究代表者
	研究期間		
1	神宮御師資料の新たな発見に伴う信仰の地“伊勢”の総合的調査研究（課題番号：19K01006）	基盤研究（C）	研究開発推進センター助手 小林　郁
	【開始】令和元年度～【終了予定】令和５年度		
2	地域子育て支援拠点施設の質の向上と機能強化に関する研究（課題番号：19K02342）	基盤研究（C）	教育学部准教授 梶　美保
	【開始】令和元年度～【終了予定】令和３年度		
3	高等学校理科の生物基礎における実施率を向上させるための簡易免疫実験の提案（課題番号：19K02742）	基盤研究（C）	教育学部教授 中松　豊
	【開始】令和元年度～【終了予定】令和３年度		
4	機械学習を用いた既存の都市内部構造モデルの定量的評価と再構築（課題番号：19K21671）	挑戦的研究（萌芽）	文学部准教授 桐村　喬
	【開始】令和元年度～【終了予定】令和３年度		

Global グローバル

ヨーク大学・夏期語学研修体験レポート

昨年新設されたカナダ・ヨーク大学での夏期語学研修が今年も実施され、八月三日から二十六日にかけての約三週間、七名が充実した現地生活を過ごした。以下にコミュニケーション学科一年・奥岡万葉さんの体験談を紹介する。

現地での生活
文化の違いを肌で実感

いちばん印象に残ったのは文化の違いです。私のホストファミリーはアジア系カナダ人一家でしたが、食事の席で「マザー、ごめんなさい、お腹がいっぱいで全部食べられないです」と言うと、「なぜ謝るの？」と不思議がられました。日本では残すともったいないし、申し訳なく思いますよね。また、親戚三家族と一緒に遊園地へピクニックに連れていってくれました。とにかくおおらかでフレンドリーな雰囲気が心地よく、気楽に過ごせました。通学途中の電車内では見知らぬおばあさんに話しかけられたり、駅では自己PRのパフォーマンスをしている人がいて、日本とは異なるコミュニケーションの取り方や光景がとても新鮮でした。

遊園地でピクニック

語学力
発音、会話力が向上

間違いを怖れず、積極的に話したことで発音と会話力が上達したと思います。学校の先生やホストマザーには何度も質問し、外出したときはスマホで簡単に調べず、必ず人に尋ねました。日常会話なら中学校で習った単語やフレーズで十分通用するとわかったことも収穫です。ホストマザーからも「段々上手になってきているよ」と褒められ、自信が付きました。

研修プログラム

Week 1	月	火	水	木	金	土
9:00-11:15	Civic Day (provincial holiday) -No Class	ウェルカムレセプション、プレースメントテスト、キャンパスツアー	授業	授業	授業	Niagara Falls with AP international students -Community Leaders Meet at 9:30 (Departure at 18:00)
11:30-12:30		コンピュータラボオリエンテーション	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	
12:30-13:30		昼食				
13:30-16:15		授業	"Canadian-U.S. Relations" Academic Workshop	"History of Canada" Academic Workshop / Baseball Game Blue Jays vs Yankees Meet at 16:30	Campus Event - Community Leaders (13:30–16:00)	

Week 2	月	火	水	木	金	土
9:00-11:15	授業	授業	授業	授業	授業	Canada's Wonderland -Community Leaders
11:30-12:30	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	
12:30-13:30	昼食					
13:30-16:15	CN Tower Trip - Community Leaders (13:30)	"Economy of Canada" Academic Workshop	"Canada's Relations with the World" Academic Workshop / Campus Event (16:30–19:00)	"Music of Canada" Academic Workshop / Boat Cruise Meet at 16:30	Campus Event -Community Leaders (13:30–16:00)	

Week 3	月	火	水	木	金	土
9:00-11:15	授業	授業	授業	授業	授業	出発（帰国）
11:30-12:30	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	
12:30-13:30	昼食				フェアウェルパーティ	
13:30-16:15	Skit/Song for Ceremony Preparation -Community Leaders (13:30–16:00)	"Food in Canada" Academic Workshop	Toronto Island Tour -Community Leaders (13:30)	"Canadian Cultural Values" Academic Workshop		

授業：45.0Ｈ　ワークショップ：27.5Ｈ　テスト：2.0Ｈ　【合計】74.5Ｈ

授業
実践的で楽しいプログラム

授業は実践的かつ楽しみながら取り組めるプログラムばかりで、ワークショップの一つ「Food in Canada」では先生が「バタータルト」や「ナナイモタルト」など、カナダの国民的スイーツを作ってきてくださいました。バターと砂糖が大量に入っているので味が濃く大変甘かったのですが、カナダで愛されてきた伝統菓子を知る貴重な機会になりました。

研修で得たもの
視野が広がり、帰国後も学習を継続

多国籍の人々、異文化に触れたことで視野が広がり、長期の留学にも興味が湧いてきました。帰国後は身に付けた英語力をキープできるよう、「You Tube」で英語のチャンネルを観たりホストマザーと連絡を取り合って、勉強を続けています。

研修に参加する前は研修生活を有意義に過ごせるのか心配でしたが、現地では誰もが優しく、親切に接してくれました。本当に参加してよかったと思います。

それぞれのチャレンジの場に
第14回皇學館中学校・高等学校スピーチコンテスト

小学生の部入賞者

中学生の部入賞者

先日８月17日（土）に第14回皇學館中学校・高等学校スピーチコンテストが開催され、小学生の部は49名、中学生の部は24名と、県内外からたくさんの応募をいただきました。

小学生の部ビギナーは「Wonderful Kyushu（九州ってすばらしい）」、アドバンストは「A New Era for Japan（日本の新しい時代）」をテーマに英文を暗唱、中学生の部では「My Hometown（私の故郷）」・「What I am absorbed in（私が熱中していること）」・「Dear Foreign Visitors to Japan（訪日する外国の人たちへ）」のテーマの中から１つを選んでスピーチを行いました。コンテスト中、各スピーチにも熱が帯び、表情豊かに一生懸命に伝えようとする姿が印象的でした。結果は、小学生の部では【ビギナー】柴原芽依香さん（米ノ庄小学校）、【アドバンスト】西村幸蘭さん（内部東小学校）、中学生の部では宮木麗乃さん（藤原中学校）がそれぞれ優勝に輝きました。

どの児童、生徒もこの日のために何度も一生懸命に練習を重ねてきたこと、当日もたとえつまりながらでも最後まで諦めない強い想いが伝わってきました。このスピーチコンテストをそれぞれにとってのチャレンジの場とし、英語でも日本語でもプレゼンテーションスキルをこれからさらに磨いていってもらいたいと思います。　英語科　角屋重文

皇學館中学校29名がマルタ共和国SOPA（ソーパ）合唱団と交流

セミナーホールにて合唱を披露するSOPA合唱団

イタリアの南、地中海に浮かぶ小さな島国・マルタ共和国からやって来たSOPA合唱団19名（小１～中３）と皇學館中学校の生徒29名が７月29日、内宮参拝などの国際交流プログラムを楽しんだ。

いせトピアで開催された伊勢少年少女合唱団との合同コンサート「国際青少年音楽祭 in 伊勢」に参加するため、同月25日から伊勢を訪れていたSOPA合唱団。英語科主任の小林誠治先生は「普段接することのない国、人々を知る貴重な機会。同年代同士、気軽に、ただ時間を共有するだけでもいい経験になる」と今回のプログラムを企画した意図を語る。

この日の午前中、生徒たちは内宮を案内し、手水や参拝の仕方を英語でガイド。午後はセミナーホールでSOPA、伊勢の両合唱団が美しい歌声を響かせた。すっかり打ち解けた様子に、「マンツーマンでのオンライン英会話（９面参照）を続けるうちに、英語を話すことへの抵抗感が減ってきているのでは」と小林先生。今後も日本文化の発信やコミュニケーション能力の向上、異文化理解につながる実践の場を増やしていきたいと話した。

平成31年度　海外インターンシップ報告

コミュニケーションと異文化体験
マレーシアプログラム

クローバー電子株式会社のご協力による海外インターンシップ『マレーシア』プログラムは、本年度で４回目を迎えた。６月の事前説明会には本年度も多くの参加者があったものの、マレーシア現地法人であるAOBA ELECTRONICS CO.の受入体制の都合により、３名という狭き門で選抜された。

８月２日には伊勢市の本社において本インターンシップの担当者様（本学卒業生）より事前指導としてご講義いただいた。まずは社内を見学させていただき、事業内容の説明を受け、その後、「なぜ海外に進出しているのか」「出国までの学修」「心構え」をテーマに意見交換をしつつ、刺激のあるご指導をいただいた。

AOBA ELECTRONICS CO.

８月19日、日本が猛暑の中、赤道近くで暑いマレーシアへ発ち、翌20日から３日間の就労体験を行った。工場でラインに入っての業務や取引先の工場の見学、現地の皆様の前でスピーチをするなど様々な経験を積んだ。日本語が通じない環境で、言葉（＝英語）によるコミュニケーションに苦労したようであるが、現地担当者様（本学卒業生）からの「いかに自分の意図を伝えるかが重要」との指導に心を打たれ、苦労しながらも課せられた業務をこなし、現地の従業員の方々と心を通わせ、マレーシアでの異文化体験もできたようだ。

学生はそれぞれに海外で働くことの意義を学び、海外に出ること、他国の方とコミュニケーションをとること、異文化を体験することの重要性に気がついたようである。

海外にて新しい視野を得る
中国プログラム

第三銀行と本学との連携協定に基づく海外インターンシップ『中国』プログラムは例年２月に実施していたが、早期化している就職活動などに対応すべく、半年ほど前倒しした８月26日から31日で実施した。

訪問先の日系企業にて

事前の説明会ではプログラム始まって以来の多数の参加者があり、注目度の高さがうかがえた。また説明会に引き続いて行った昨年度の報告会もこれまでにない盛り上がりを見せた。

７月に第三銀行の担当者様より中国経済の概要や日本にいては感じることができない実情、ビジネス環境、文化などについてご指導いただいた。さらに昨年度から始まったマーケティング課題も出され、インターンシップの目的をより明確にして臨むこととなった。

現地では引率指導の張磊教授（文学部コミュニケーション学科）とともに第三銀行の現地駐在員の方にご指導いただきながら、日系企業４社を訪問した。学生は事業内容などの説明を受け、ビジネスの実態や国際的な考え方などに留まらず、多くの方から中国で働くことになったきっかけや意義、楽しさ、難しさなど生の声を聞くことができた。日本にいるだけでは気づけなかったことを発見し、新しい視野を得たようだ。この経験を生かして、今後の学生生活がより豊かになることを願いたい。

Culture & Sports
カルチャー&スポーツ

柔道部がギリシャ代表と合同練習

ギリシャの柔道ナショナルチーム（男性三名、女性一名）が八月十三日から二十五日にかけて来学。日本武道館で開催された世界柔道選手権東京大会（八月二十五日～九月一日）の事前合宿として、本学柔道部員らと打ち込み（相手を投げるまでの動作を繰り返す）や乱取り（互いに技を掛け合う）などの練習メニューをこなした。

国の代表チームが訪れるのは、昨年のカナダに続き二回目。個人でもオーストラリアやネパールなどからの外国人選手が練習に参加することもあり、国際色豊かな道場となりつつある。積極的に誘致している佐藤武尊部長は「学生には競技力の向上だけをめざすのではなく、多様な文化や人と触れあって感性を伸ばし、人間としても成長してほしい」とその狙いを話し、「今回のギリシャチームの選手たちは世界上位二十位以内に入っており、東京オリンピックにもおそらく出場するであろうメンバー。トップランカーとの交流は部員にとってかけがえのない経験になるはず」と語った。

主将の南里方紀（まさき）さん（現日4年）は「世界大会に出るチームだけあって組手や技の入り方、タイミングなど勉強になることばかり。トップレベルの選手と練習する機会などめったにないので、本当に貴重な体験になった」と話し、テルツィドウ・エリザベス選手（世界柔道女子七十キロ級に出場）は「たくさん乱取りができ、大会に向けいい準備になった。力にまかせるのではなく、技を生かすというスタイルの違いがあり、興味深かった」と感想を語った。

19日は市内の小中学生20名も来学し、柔道を通し交流を楽しんだ

稽古に励むテルツィドウ・エリザベス選手。世界柔道では２回戦で同大会女子70キロ級優勝者マリー＝イヴ・ガイ選手（フランス）に敗れた

髙橋麻莉弥（教１）さんがフィリピン代表として世界柔道に出場

「一つひとつの試合を大事にしたい」と話す髙橋さん

８月25日から９月１日にかけて開催された世界柔道選手権東京大会に教育学科１年の髙橋麻莉弥さんが女子70キロ級フィリピン代表として出場。残念ながら初戦で負けを喫したが、今後につながる貴重な経験を積んだ。

父が日本人、母がフィリピン人で、両国の国籍を持つ。柔道をしていた父の影響で小学３年の時〝柔の道〟へ。大学でも柔道を続けたいと模索する中、佐藤武尊部長の人徳、充実した練習環境に惹かれ本学への入学を決めた。「佐藤先生は柔道のことはもちろん、プライベートな悩みにも親身に話を聞いてくださり、本当に学生思い。先輩方はみなさん優しく努力家で、恵まれた環境の中で柔道に取り組めています」。

現在の世界ランクは女子70キロ級で88位。来夏までに24位以内に入れば、東京オリンピック出場が見えてくる。「自身が活躍することで、フィリピンの柔道人口の増加につながれば」と意欲を語った。

空手道部・西村浩行監督がアジア・オセアニア空手道選手権で「形」「組手」２冠

十五カ国から約四百七十名が参加し、八月にタイ・バンコクで開催された第二回アジア・オセアニア空手道選手権大会において本学空手道部の西村浩行監督が「形」と「組手」（いずれも五十五～五十九歳の部）で優勝。シニアでは初の二部門制覇という快挙を成し遂げた。

八月二十八日、優勝報告のため鈴木健一伊勢市長を表敬訪問した西村監督は「組手の準決勝ではこれまで勝ったことのない日本人選手に逆転勝ちし、波に乗った。決勝では自分よりはるかに大きい体格、パワーの外国人選手に恐怖すら抱いたが、冷静に戦い勝つことができた」と喜びを語った。

「２つのタイトルを獲るのは難しく、日頃の稽古の大切さを実感した」と話す西村監督（檀上左から２人目）

西村監督は館友（第十九期生）でもある。入学時に空手道部に入部。以来、四十年にわたり空手一筋に打ち込み、現在は指導者としても活動する傍ら、十年前から本学空手道部の監督を務めている。今回の優勝が「子どもたちや学生にとって良い刺激になれば」と語り、「空手の普及につながれば嬉しい」と話した。

十一月十六日には昨年度覇者となった熟練者全国空手道選手権大会が開催される。「次は追われる身。攻めを忘れず、自分の空手をしたい」と意気込みを語った。

東京五輪への採用で競技レベルが上がっている空手

個人10名、男子団体が全国大会に出場！ 皇學館大学・柔道部

８月25日に愛知県武道館にて東海大会が開催され、上位３位以内に入賞した男子９名、女子１名と男子団体が全国大会への出場を決めた。個人は９月28日、29日に秋田県で行われる全日本学生柔道体重別選手権大会に、男子団体は10月19日、20日に兵庫県で実施される全日本学生柔道体重別団体選手権大会に出場する。

個　人

10名が全国大会出場！
全日本学生柔道体重別選手権大会
９月28日～29日◆秋田県立武道館（秋田県）

全日本学生柔道体重別選手権大会　出場選手

男子	60kg級	東　翔陽	（国史４年）
		清水唯斗	（現日４年）
	73kg級	下沢直生	（現日１年）
	81kg級	南　夏貴	（現日２年）
	90kg級	松田悠佑	（国文４年）
	100kg級	南里方紀	（現日４年）
		上田虎徹	（教育２年）
	100kg超級	安田悠人	（国文４年）
		竹内直巳	（現日２年）
女子	78kg超級	上林山未来	（教育２年）

団　体

全国大会出場決定！
全日本学生柔道体重別団体優勝大会
10月19日～20日◆ベイコム総合体育館（兵庫県）

強化指定クラブ（駅伝競走部・柔道部）全国大会出場に伴う協賛金のお願い

平素は、本学の教育につきまして、ご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本学では、駅伝競走部・柔道部を強化指定クラブとし、全国で活躍できる選手育成に努め、学園一丸となり強化に取り組んでおります。

各方面からの強化指定クラブへのご支援を何卒よろしくお願い致します。

協賛金金額

個　人	１口	3,000円
法人・団体	１口	10,000円

出来ますれば、複数口のご協賛をお願い致します

※免税措置が適用可能となります。
※協賛金手続きについては「**教学振興会**」**事務局**にて対応いたします。TEL 0596-22-6313

協賛方法

法人	法人からのご支援については、本学より関係書類をお送りいたしますので、上記「教学振興会」事務局へご連絡ください。
個人	インターネット等からもお申し込みいただけます。詳しくは本学公式ホームページをご覧ください。

寄付者全員に御礼として**応援タオル**を贈呈

令和元年度「三重ジュニアドクター養成プログラム」が進行中

科学研究に強い関心と潜在的な才能を持つ児童（小５・６）、中学生を対象に大学で研究指導を行い、未来の科学者を育成する「三重ジュニアドクター養成プログラム」が今年度も実施されている。Dエリアである本学では１名が第２段階、９名が第１段階教育プログラムを受講。観察・実験やレポート作成、プレゼンテーション等の講座を通して探究する能力や情報発信するスキルを磨いている。

皇學館大学
駅伝競走部 応援ガイド

悲願の全日本大学駅伝初出場から３年、一層のレベルアップをめざしてきた本学駅伝競走部は出雲駅伝に２大会連続２回目、全日本大学駅伝に３大会連続３回目の出場を決めました。〝皇學館〟の誇りと伝統をたすきでつなぎ、全力で駆け抜けます。熱い応援をよろしくお願いいたします。

第31回 出雲駅伝

10/14（月・祝） 13：05スタート

出雲大社正面鳥居前➡出雲ドーム前

テレビ　フジテレビ系列●13時～

※詳しくは新聞のテレビ欄等でご確認ください。

第51回 全日本大学駅伝

11/3（日・祝） 8：05スタート

熱田神宮西門前➡伊勢神宮内宮宇治橋前

テレビ　テレビ朝日系列　放送予定

※詳しくは新聞のテレビ欄等でご確認ください。

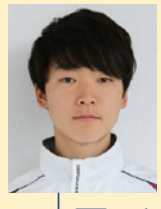
皆さんの声援が選手の力になります。ぜひ沿道で応援しましょう！

日比勝俊監督に聞く　人間力と競技力を両輪に、さらなるレベルアップを

出雲駅伝への出場権をかけた東海学生駅伝は大会新記録で連覇、全日本大学駅伝東海地区選考会は四分三十三秒差（大会史上最高差）をつけてのトップ通過・大会記録更新と、いずれも実力の高まりを感じさせる内容となりました。しかし、ここに至るまでの道のりは順風満帆ではありませんでした。インフルエンザの蔓延、教育実習など学業との両立、チーム内の意識格差…意識の違いについていえば、予選会を一カ月後に控え、部員たちがこれまでになく活発に意見をぶつけ合い、徐々にベクトルを一致させていったことで確実に空気が変わったと思います。

本学駅伝競走部は常に進化を狙っているチームです。そのために部員には監督やコーチにただ従うのではなく、まず自分たちがどうなりたいか、どうありたいかを考えてもらう。そうすれば自ずと課題が見つかり、意見や提案、行動につながります。今回、選手たちは出雲駅伝は八位、全日本大学駅伝は十五位を目標に掲げました。人間力と競技力を両輪に、より一層のレベルアップを目指していきますので、温かいご支援、ご声援をよろしくお願い致します。

駅伝競走部メンバー



チーム力を発揮し目標を達成したい

駅伝競走部主将　平野恵大（現日４年）

駅伝は選手個人の力以上に、チーム力が大事です。団結力を高めるため、ミーティングを増やし、食事の時間も合わせるなどして絆を深めてきました。また、今年は四年生が多いため、最高学年としての自覚、責任感を発揮してチームを導きたいと考えています。思いきり走るだけでよかった初出場と違い、二回目、三回目はさらに上位を狙わなければいけないプレッシャーはありますが、今回、出雲駅伝は八位、全日本大学駅伝は十五位という目標を自分たちで決めました。ぜひ達成し、結果を出すことで応援してくださる皆さんの期待に応えたいと思います。

マネージャー

岡田萌花（教育１年）
松下日花里（教育３年）
奥野伶奈（教育１年）
本塚　舞（神道２年）
緒方香津貴（教育２年）

学内コーチ

一路侑杜

柴田龍一（現日１年）
伊藤大晟（教育１年）
齊藤希龍（教育２年）
松原隼斗（国文２年）
宮城　響（教育３年）
奥野夏希（現日４年）
山下慧士（国史４年）
土肥紘大（現日１年）
笹竹陽希（教育１年）
鈴木翔也（教育２年）
原田　翼（コミュ２年）
金森拳之介（現日３年）
田邊隼都（国史３年）
金谷智顕（教育４年）
花井秀輔（現日１年）
宮本康希（教育１年）
下村悠斗（国文１年）
市川駿希（教育２年）
川瀬翔矢（現日３年）
上村直也（教育３年）
新美　健（教育４年）
宮野蓮弥（現日１年）
村井洸陽（教育１年）
竹内啓一郎（国史１年）
加藤元紀（教育２年）
桑山楓矢（現日３年）
平山寛人（教育３年）
大河内雄登（現日４年）

こちらから応援ポイントを確認できます

第31回 出雲全日本大学選抜駅伝競走

10/14(月)体育の日 13:05スタート

出雲大社正面鳥居前➡出雲ドーム前
6区間 45.1km

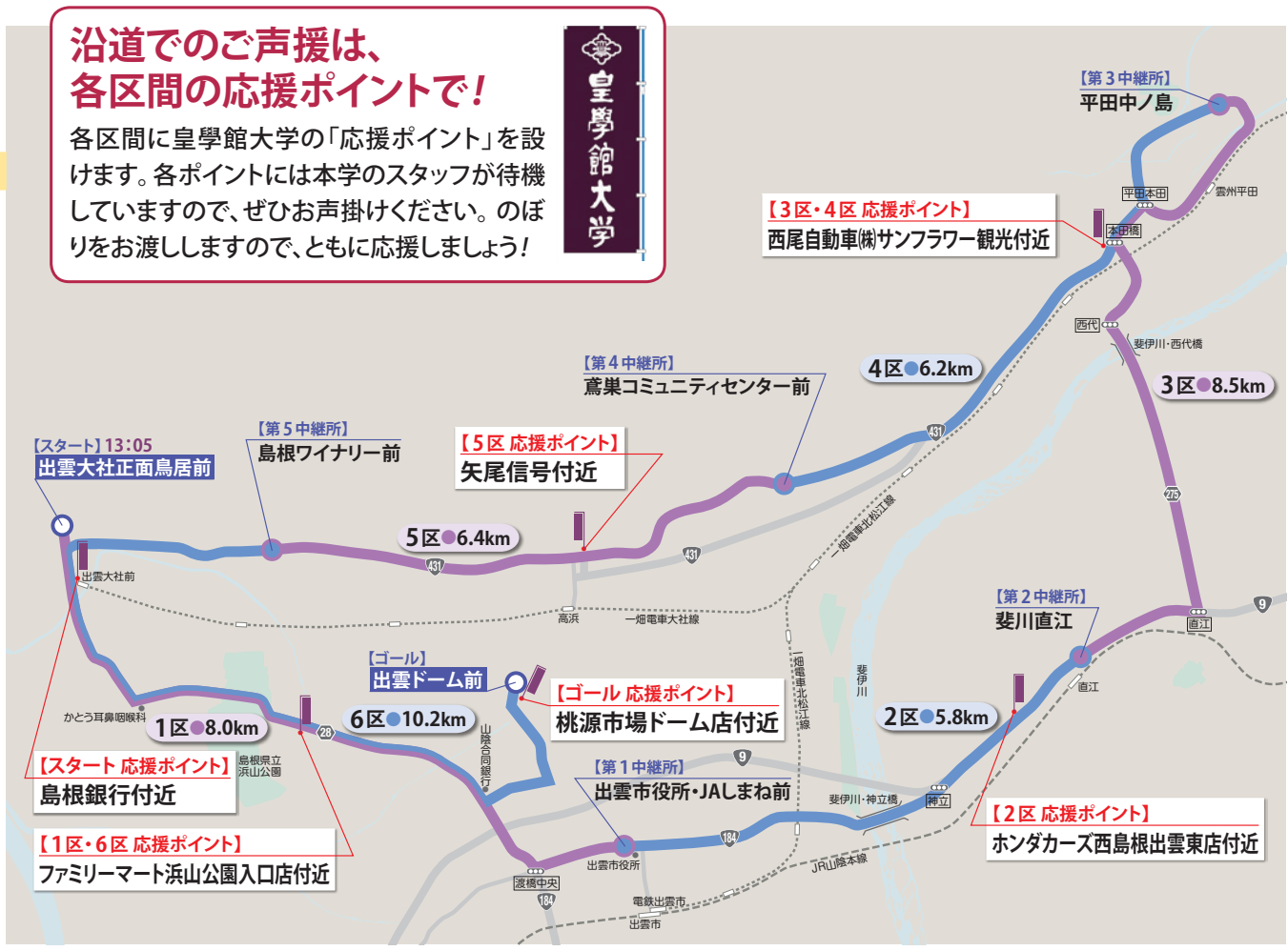
先頭選手通過予想時刻	
スタート	13：05
第 1 中継所	13：28
第 2 中継所	13：45
第 3 中継所	14：10
第 4 中継所	14：28
第 5 中継所	14：46
ゴール	15：16

応援に際してのお願い

- スタート地点（大社：神門通り）は混雑が予想されますので、応援の方は交通ルールを守り、係員の案内に従ってください。
- フィニッシュ地点（出雲ドーム）で応援される方は、公園内の駐車場が満車の場合、係員の案内に従って周辺の臨時駐車場に車をとめてください。
- スタート・フィニッシュ地点には、応援用のぼり旗の掲出禁止区域があります。また、のぼりをガードレールなどの沿道公共物にくくりつけることは道路交通法違反となります。のぼりは手で持って応援してください。
- 応援ポイントでは、まわりの皆様のご迷惑にならないようご配慮をお願いします。また、周辺に無断駐車、違法駐車をされませぬよう、よろしくお願いします。
- 本大会は、「ドローン・ラジコン等無線機器」による録画・撮影等の行為が禁止されています。

沿道でのご声援は、各区間の応援ポイントで！

各区間に皇學館大学の「応援ポイント」を設けます。各ポイントには本学のスタッフが待機していますので、ぜひお声掛けください。のぼりをお渡ししますので、ともに応援しましょう！



秩父宮賜杯 第51回 全日本大学駅伝対校選手権大会

11/3(日)文化の日 8:05スタート

熱田神宮西門前➡伊勢神宮内宮宇治橋前
8区間 106.8km

先頭選手通過予想時刻	
スタート	8：05
第 1 中継所	8：33
第 2 中継所	9：05
第 3 中継所	9：40
第 4 中継所	10：15
第 5 中継所	10：51
第 6 中継所	11：29
第 7 中継所	12：21
ゴール	13：19

応援に際してのお願い

- 鳴り物での応援は禁止されています。
- 応援は必ず歩道上で行ってください。歩道から手や体の一部を乗り出して応援することは禁止されています。
- のぼりをガードレールなどの沿道公共物にくくりつけることは道路交通法違反となります。のぼりは手で持って応援してください。
- 応援ポイントでは、まわりの皆様のご迷惑にならないようご配慮をお願いします。また、周辺に無断駐車、違法駐車をされませんよう、よろしくお願いします。

入試情報

令和２年度生 募集要項

詳しくはホームページの募集要項をご覧ください。

皇學館高等学校

募集定員	320名（内部進学者含む）
募集コース	進学コース・特別進学コース
願書受付	令和２年１月８日㈬～14日㈫ 9:00～15:00（土・日および祝日は除く）
試験日	令和２年１月24日㈮
教　科	国語・数学・英語・理科・社会

オープンスクールのご案内

下記日程以外の見学も可能です。詳しくはお問合せください。

第２回 オープンスクール「入試問題を知ろう!」

10月20日㈰　午前の部 10:00～13:00（予定）
午後の部 13:30～15:30
※午後の部は自由参加です（クラブ活動見学）。

学校説明、入試説明、吹奏楽部によるミニコンサート、学食体験、入試過去問題解説（英語・数学）など

第３回 オープンスクール「クラブ活動を知ろう!」

11月17日㈰　午前の部 10:00～13:00（予定）
午後の部 13:30～15:30
※午後の部は自由参加です（クラブ活動見学）。

学校説明、入試説明、吹奏楽部によるミニコンサート、学食体験、生徒によるクラブ紹介など

※筆記用具、スリッパをお持ちください。参加者の皆さんには学生食堂での昼食を準備しています。クラブ活動の見学も承っています。保護者の方々もご参加いただけます。

問合せ先
皇學館高等学校　TEL 0596-22-0205㈹

高校

能動的学習態度と自国を見直す機会を得て

第18回オーストラリア語学研修

パッフィンビリー鉄道の乗車駅にて

夏休みの７月22日～８月４日の２週間、オーストラリア・メルボルンにおいて語学研修を行い、12名の生徒が参加した。

姉妹校であるローズヒル・セカンダリーカレッジとの交流も今年で18年目を迎えた。18年もの長い間、この語学研修プログラムを続けて来られたのも、皆さまのご理解とご協力のお陰であり、心から感謝申し上げたい。

高校生がこの研修に参加する意義とは何か、とよく考えることがある。生徒の様子から大きく２つあることに気がついた。

ひとつは英語学習への取り組みが変わる点にある。参加生徒は英語でのコミュニケーションに苦労し、歯がゆく、悔しい思いをする。同時に、もっと英語を勉強したいというモチベーションが生まれ、帰国してからは能動的な学習態度に変化する。

もうひとつは、日本という国を再認識する機会になるという点だ。海外で滞在すると、あらゆることを日本と比較し、日本とはどういう国で、どういう文化であるのかを考える。日本にいては見えてこなかった日本の素晴らしさに気づく。日本に住む者としての誇り、アイデンティティに気がつくのだ。

これら２点は国際社会で活躍する者にとって欠かせない資質だ。生徒たちには今回の語学研修での経験を国際人として活躍する際の足がかりにして欲しいと思う。

国際交流担当　角屋重文

中西結菜さんの作品が「潮風のおかし」として発売!

中西さんと菓子工房シマヤの竹内さん

「志摩の里海旨いもんコンテスト」で最優秀賞に選ばれた中西結菜さん（３年）の作品レシピをもとに志摩市の「菓子工房シマヤ」さんが新商品を開発。「潮風のおかし」とネーミングも新たに、９月中旬から販売されることが決まった。

８月29日のお披露目会で中西さんは「自分の考えたお菓子が店頭に並ぶことを考えると本当に嬉しい。試作中は焼き加減がうまくいかず、ヒジキが口に残ったりして苦労した。プロの手が加わったことで優しい味になった」と話し、顧問の櫻井先生も「アカモクは洋菓子に取り入れるのが難しい食材。中西さんのレシピではアカモクを焼き菓子の上に乗せてあったが、シマヤさんのアレンジは粉末にして生地に練りこんであるため食感もよく、すべての食材がまとまっている」と感想を語った。試食した生徒からは「ヒジキとアカモクの味が強いのかと思ったが伊予柑の風味もあり、食べやすい」「甘すぎず、おいしかった」等の声が聞かれた。

伊勢志摩産のヒジキやアカモクをふんだんに使用した焼き菓子。パッケージにはシマヤさんのロゴのほか、「KOGAKKAN」の文字も印字されている

全員がはつらつプレー

クラスマッチ

今回のクラスマッチは生憎の天候で予定していた競技も実施できず、準備の点で大変なことも多かったのですが、そんな天気に負けないほど全員が元気にはつらつとプレーできました。学年を越えて対戦したので、普段はあまり関わりがない他学年の生徒ともつながりが生まれたと思います。各学年、各チームの試合を見ていて真剣な勝負の中にも互いの選手を思いやる心も見えた気がしました。１日目のソフトドッヂボールと２日目のバレーボールともクラスの皆で盛り上がってとても良かったと思います。

総務委員長　田村優我

どの試合も白熱した戦いとなり、応援にも力が入ったクラスマッチ

ソフトドッヂボール	優　勝	２年１組	準優勝	３年４組
バレーボール	優　勝	３年６組	準優勝	２年３組

令和元年度 全国大会各クラブの結果

インターハイ

バドミントン部	女子団体		●２回戦進出
	女子個人	ダブルス	糀谷功明・齋藤　崚◆２回戦敗退
			東　美衣奈・岡　珠希●２回戦進出
		シングルス	山本純白◆１回戦敗退
			東　美衣奈●ベスト32
剣道部	女子個人		早川愛菜◆２回戦敗退
陸上部			大井　悠　八種競技●４位
			藤本大輝　幅跳び◆予選敗退
			白井颯斗　棒高跳び◆予選敗退
			野呂仁人　棒高跳び◆予選敗退
柔道部			宮本ほの◆２回戦敗退
弓道部	女子団体		◆予選敗退

全国高校総合文化祭

写真部	堀出萌絵◆入賞なし

中学校

過去最多の900組が来場

三重県私立中学校フェア

７月15日（月･祝）に「メッセウイング･みえ」にて三重県私立中学校フェアが開催された。今、小学校の教育現場でも話題のプログラミングや英語教育などの体験授業が終日開催され、北はいなべ市から南は志摩市までの県内各地から多くの小学生が参加した。

本校もゴードン先生、エリック先生を中心に英語科教員が体験授業を担当。多くの小学生が英語に親しみ、楽しく時間を過ごした。また、理科ではペットボトルの中にジャングルを作るという体験授業を実施。完成した密封ペットボトル内はまるでミニ自然界。少量の水だけで一切手を加えなくても生育していく自然循環を実感できるとあって、多くの小学生と保護者が興味深い様子で参加していた。体験後は授業で作った「ミニジャングル」を喜んで自宅に持ち帰る姿があった。

理科体験授業「ペットボトルジャングルをつくろう」

メッセウイングでの開催は今年で３年目となったが、過去を大きく上回る900組という来場者を迎えた。今年度からは多くの公立小学校で案内チラシを配布。三重県の教育熱がますます上昇していることを実感することとなった。今後も私立中学の充実した教育を広くアピールしていきたい。

中学入試広報　山形達哉

全学年でオンライン英会話プログラムを実施

今年度のオンライン英会話プログラムが１・３年生は６月、２年生は７月からスタートした。全校生徒を対象に、週１回ペースで年間約30回の通常レッスンを予定。さらに英語検定３級以上の受験者全員を対象にした二次面接試験対策も実施している。

タブレットに表示されるネイティブ講師の顔と教材、チャット画面を見ながらマンツーマンで会話を進める本プログラム。文法事項をベースとして基礎的な会話表現の習得を目指す内容から、トピックをもとに自分の考えを広げ、ロールプレイやディスカッションなどを通して実践力を養う内容まで、学年・講座により幅広く設定している。それぞれの英語力に合わせてアウトプットの機会を増やすことで英語に慣れ、コミュニケーション力や発信力をさらに磨いていってもらいたい。

英語科主任　小林誠治

“協力”の大切さと難しさを実感

１年生宿泊研修

１年生恒例の宿泊研修が６月20日、21日の２日間、志摩市のともやま公園で実施された。両日とも汗ばむ陽気となり、日差しが照りつける中、生徒たちはシーカヤックや野外炊飯など屋外のアクティビティを満喫。英語活動やチームビルディングのほか、夜にはキャンプファイヤーを楽しんだ。以下に生徒の感想を掲載する。

仲間と協力「ヘリウムリング」

一気に友情が深まった２日間　１年Ａ組　金 森 星 明

中学生になって初めての宿泊研修では、友達と協力し、助け合い、いろんなことを学んだ。競い合い、勝った負けたと一喜一憂。くやしがり、笑いころげ、時々叱られた。ペアの人と息を合わせ、声を掛け合って頑張ったシーカヤック体験、みんなとコミュニケーションをとり課題にチャレンジしたチーム・ビルディングや英語学習…一つひとつの場面で普段は思いもしないことや気付かないことをじっくり考え、みんなでやることの大切さが実感できた。一気に友情が深まった楽しい２日間だった。

自立心や助け合う心を養えた　１年Ｂ組　太 田 果 歩

宿泊研修を終えて今思うことは、「非日常的な場所で、家族以外の仲間と過ごすことで、自立心や協力し助け合う心が養えた」ということだ。慣れない場所で生じた戸惑いなどは、そばにいてくれた友達と相談し、協力して乗り切ることができた。その上で、家での生活は親にたくさん助けてもらい、支えてもらっていると感じた。なかなか口には出せないが、ここで素直に感謝したいと思う。個人目標の「何にでも積極的に参加し、色々なことに挑戦する」については達成できたとは言えないので、次の機会にリベンジしたい。

入試情報

令和２年度生 募集要項

詳しくはホームページの募集要項をご覧ください。

皇學館中学校

募集人数		A日程（一般・専願）・B日程併せて 35名
A日程		
出願期間		令和元年 12月９日(月)～令和２年 １月９日(木) 9:00～15:00（土曜日は正午まで） ※12月14日(土)・15日(日)・22日(日)、12月27日(金)～１月５日(日)を除く
試験日時		令和２年１月12日(日) 8:50～
試験教科	一般	国語・算数・社会・理科・英語 ※国・算必須。社・理・英から２科選択し、得点の高い１科採用。
	専願	国語・算数 ※英語外部試験の有資格者に加点
B日程		
出願期間		令和２年１月20日(月)～29日(水) 9:00～15:00 ※１月25日(土)・26日(日)を除く
試験日時		令和２年２月１日(土) 8:50～
試験教科		国語・算数

オープンスクールのご案内

第３回 オープンスクール ～皇學館で学ぼう～
10月27日(日) 9:30～
学校説明・入試説明・入学試験対策授業 など

※HPにて申込が必要になります。約１カ月前から受付開始予定です。

問合せ先

皇學館中学校　TEL 0596-23-1398(代)

中高合同

中高あわせ約1500名が来場

中高でオープンスクールを開催

本年度の第１回オープンスクールは、８月31日（土）に高校単独開催、翌日の９月１日（日）には「皇學館中学校・高等学校オープンスクール」として中学校・高等学校合同で開催した。今回も皇學館大学記念講堂をメイン会場とし、また高校の一教室を中学・高校・大学の説明会会場として開設することで、中高だけでなく大学とのつながりも体感できるように企画したところ、中高合わせて約1500名が来場。天候が心配された日程であったが、雨も降らず両日ともに盛会のうちに幕を閉じた。

盛り上がった歓迎コンサート

賑わいを見せるイベント広場

８月31日の高校単独開催では司会の志村茜さん（高３）の進行でスタート。まず上村桂一校長の挨拶に始まり、生徒代表の田村優雅さん（高２）の歓迎の言葉のあと、堀出萌絵さん（高２）から学校生活の紹介、そして入試担当者から入試説明がなされた。その後、現在「三重県吹奏楽コンクール」において７連覇中の吹奏楽部とダンス部による歓迎コンサート、学食体験、高校施設見学（スタンプラリー）、クラブ見学へと進行した。

９月１日は中高合同開催。校長挨拶、高校の説明のあと志村昴さん、野崎優希さん（ともに中３）による学校紹介、そして中学校入試担当者による入試説明がなされた。休憩をはさみ、その後、参加した中学生は前日と同様の企画へ進行し、小学生は学食体験、体験授業、部活体験などで本校を楽しんだ。「制服体験コーナー」では小学生が制服着用し、会場内は入学後の中学生姿を想像する笑顔であふれた。持参のスマートフォンで撮影しながら「来年着られるといいね」と声かけされる保護者の方もいた。

また、午後からは両日とも、かき氷、アイスクリーム、ポップコーン、家庭部製作のクッキーなどが無料で提供される「イベント広場」が設けられ、晩夏の暑い時間を心地よく過ごす人々で賑わった。

今後も中高それぞれにオープンスクールを企画しており、高校は10月20日（日）、11月17日（日）、中学校は10月27日（日）に実施予定。さらに多くの参加を期待している。

カルチャー&スポーツ Culture & Sports

心游舎ワークショップ「御花神饌づくり」の体験

彬子女王殿下が総裁を務められ、本学も会員である「心游舎」ワークショップが八月九日、本学・佐川記念神道博物館において開催され、博物館学芸員を目指す学生三十一名が「御花神饌づくり」を体験した。本学での開催は平成二十七年に続き三回目となる。

御花神饌とは古代染めの和紙で作られる造花。このワークショップは、京都・石清水八幡宮で毎年九月十五日に行われる勅祭・石清水祭にお供えされる十二種類の御花神饌の一部を制作するもので、今回は、梅の花と南天を作成した。

開催にあたり、はじめに大島信生研究開発推進センター長の挨拶があり、続いて彬子女王殿下のお話があった。次に、採取した各樹種の枝や、化学染料を一切使用しない古代染めの技法の復元による取り組み等で活躍されている染織家・吉岡更紗氏が講話をされた。

その後、参加した学生は六グループに分かれ、いよいよ御花神饌づくりに挑戦。

心游舎の活動についてお話される彬子女王殿下

各テーブルを回り、手ほどきする吉岡更紗氏

染色工房「染司よしおか」の方々の手ほどきのもと、古代染めが施された和紙やお米の糊など、普段使い慣れない繊細な作業に苦戦しつつ、真剣な表情で丁寧に作り込んでいた。

御花神饌づくりに携わった、神道学科三年の朝倉正樹さんは「石清水祭に奉納される御花神饌を作らせていただいたことを、有りがたく光栄に思います。慣れない作業でしたが、一つひとつ真心を込めて、そして楽しみながら作りました。また、伝統を学び、受け継いでいくことの大切さを改めて感じた一日でした」と語っていた。

学生全員で協力して完成した紅白の梅の花と南天は石清水祭に奉納され、本学教員と学生代表八名が祭典に参列する。

夏休み親子教室「作って遊ぼう！貝合わせ」を開催

佐川記念 神道博物館

七月二十八日(日)と八月五日(月)の両日(午前・午後の計四回)、佐川記念神道博物館と神宮徴古館・農業館の共催による夏休み親子教室が、佐川記念神道博物館を会場として開催された。両日とも好天に恵まれ、市内および近隣に在住の幼児・小学生とその保護者、十七組六十名にご参加いただいた。

この教室は、日本の伝統文化や郷土文化に関する体験を通して、日本人の感性や心を学んでもらうことを目的にしており、今年で二十五回目の開催となる。

今回は、徳川美術館(名古屋市)学芸員の並木昌史先生を講師にお迎えし、平安時代より貴族たちの間で行われた遊び「貝合わせ」に使う、合わせ貝の作成に挑戦した。

貝合わせについての歴史、遊び方を学んだ後、二枚一対となる「合わせ貝」作りに取り組んだ。大きなハマグリの貝殻の内側に色を塗り、絵を描いたり、千代紙を貼り付けたりと、オリジナルの合わせ貝が次々と出来ていった。参加者は「貝合わせは初めて。やってみたかった」と、合わせ貝の作成を存分に楽しんでいた。

作成の途中には、皆で実際に貝合わせの遊びを行った。一見、トランプの遊びである数字合わせに似ているが、貝合わせでは、ぴったりと合う貝を見つけるまで描かれた絵を見ることはない。貝の文様や大きさを頼りに、皆さん集中して一対となる貝を探し、ぴったりと合うと歓声が起こった。

歴史・作成・遊びと、貝合わせを学び体験することができ、参加者はとても満足した様子で、二日間計四回の教室は終了した。

上／親子で相談しながら合わせ貝作り
下／世界にたった一つのオリジナル作品が完成

有意義な情報交換の場に
萼の会地区別教育懇談会を開催

個別懇談会(四日市会場)

懇親会(浜松会場)

本年も、大学の教職員が各地に伺い、教育方針や大学の現況を説明する「萼の会地区別教育懇談会」が、８月24日～９月１日に、全国八会場(神戸・浜松・名古屋・福岡・伊勢・津・四日市・名張)で開催され、345名の保護者にご参加いただいた。

地区別教育懇談会ではどの会場でも「全体会」「個別懇談会」「懇親会」が行われた。「全体会」では30分という限られた時間ではあるが、本学の教育の全体像を掴んでいただくため、大学の現況や就職状況などの説明がなされた。「個別懇談会」は各学科の教員が保護者にマンツーマンで履修状況や成績を説明するもので、将来の進路に対する希望やその実現の可能性について具体的に話し合われた。また、個別懇談会と並行して、就職担当者による相談ブースや伊勢会場では、教員や企業に勤務する卒業生との懇談ブースも設けられ、より現実的な進路相談をすることもできた。津会場では「御代替り」と題して、加茂教授(神道学科)によるミニ講義(40分)が行われ、保護者のみなさんに普段大学で行われている講義を体験していただいた。「懇親会」は立食パーティー形式で行われるため、教員と保護者、また保護者同士の距離が近くなり、全体の話の中では聞くことの出来ない様々な情報を得られることが最大の利点である。

「萼の会」は、本学の保護者会の名称で、学生を「花」に、保護者を花を支える「萼(がく)」に例えたことに由来する。学生の開花・結実を保護者・教職員双方で支えるため、今後とも、萼の会の行事にぜひご参加いただきたい。

保護者対象
就職講演会・説明会
開催のご案内
10月6日(日) 13:00～15:30 事前申込不要
就職講演会　13:00～14:30◆621教室
今どきの"就活"事情と保護者の支援
講師●田上潤平 氏 株式会社マイナビ マイナビ副編集長
進路別就職説明会　14:40～15:30
◆神社……622教室
◆企業・官公庁……621教室
◆教員・保育士……722教室
お問合せ先
皇學館大学 就職担当 TEL 0596-22-6319

教育・文化週間
11月1日から7日は「教育・文化週間」です
教育・文化週間は教育や文化への関心と理解を深め、充実・振興を図ることを目的として設けられ、今年で61回目を迎えます。期間中は全国各地で教育・文化に関するさまざまなイベントが開催されます。
詳しくは
文部科学省　教育・文化週間　検索

第58回 倉陵祭 10/26(土)・27(日) 開催
スペシャルゲストアーティスト決定!

出演者 SUPER BEAVER
開催日 10月26日(土) 16:00開場 16:30開演
会場 大学内記念講堂
入場無料 要整理券…配布詳細は大学HPをご覧ください。https://www.kogakkan-u.ac.jp/
【交通アクセス】伊勢市駅(JR・近鉄)または宇治山田駅(近鉄)より、内宮行バス(徴古館前経由)または宿浦行バスに乗車し、皇學館大学前下車(約10分)。徒歩の場合は、各駅より約20分。
※当日は宇治山田駅よりスクールバス(無料)が運行します。
講演会についてはHPでご確認ください。
皇學館大学HP●https://www.kogakkan-u.ac.jp/
Open Campus 2019
未来のわたしに会いに行こう。
皇學館大学が開催するオープンキャンパスは、あなたと共に作る体験型イベントです。先輩たちのリアルなキャンパスライフを聞いたり、学科選びの相談をしたり、様々なプログラムに参加して、将来の夢への第一歩を踏み出しませんか?
「大学祭」同時開催DAY
10/26(土)
10:30～15:30
●大学祭体験
●個別相談コーナー
●学生相談コーナー
●入試説明会 etc

8月8日開催の「未来」発見DAYのオープニングの様子
※プログラム内容は変更する可能性があります。
※写真は過去に開催されたオープンキャンパスです。
皇学館　検索

イベントカレンダー

各講座の詳細につきましては本学ホームページにてご確認ください。その他、お問い合わせは皇學館大学地域連携推進室(0596-22-8635)へお願い致します。

時 所(■本学 ■他) 料金 対象 予約 問合先

10月

1 火
佐川記念神道博物館特別展
「即位礼と大嘗祭」後期展
「大嘗祭―今に伝わる古の祭儀―」
10月1日(火)～12月21日(土)
平　日 9:30～16:30(入館は16:00まで)
土曜日 9:30～12:30(入館は12:00まで)
※開館時間変更日・休館日あり
佐川記念神道博物館 無料 一般 不要
佐川記念神道博物館 0596-22-6471

5 土
月例文化講座
即位礼と大嘗祭の歴史と文学
『日本書紀』にみる即位と大嘗祭
講師●大島信生(文学部教授)
14:00～ 231教室 無料 一般 不要
地域連携推進室 0596-22-8635

11 金
皇學館大学・三重県生涯学習センター連携協定事業
NIPPONの原点を学ぶ三重の魅力発信セミナー
皇位継承と伊勢神宮
講師●佐野真人(皇學館大学研究開発推進センター助教)
19:00～ 無料 一般 必要(先着順)
三重テラス
東京都中央区日本橋室町2-4-1
浮世小路千疋屋ビル「YUITO ANNEX」
2F 多目的ホール
三重県生涯学習センター
TEL 059-233-1151　FAX 059-233-1155
E-mail manabi-kouza@center-mie.or.jp
https://www.center-mie.or.jp/manabi/

12 土
研究開発推進センター史料編纂所古文書講座
第2回「近世文書を読む」
講師●谷戸佑紀(研究開発推進センター共同研究員)
14:00～ 佐川記念神道博物館講義室
無料 一般 必要(先着順)
研究開発推進センター 0596-22-6466

19 土
佐川記念神道博物館教養講座
伊勢学事始Ⅱ
第3回「伊勢神宮と東大寺」
講師●多田實道(文学部教授)
14:00～ 佐川記念神道博物館講義室
無料 一般 必要(先着順)
佐川記念神道博物館 0596-22-6471

20 日
第20回 高校生英語スピーチコンテスト
9:30～ 431教室 無料 一般 不要
文学部コミュニケーション学科 0596-22-6472

11月

9 土
月例文化講座
即位礼と大嘗祭の歴史と文学
「大嘗会和歌」
講師●深津睦夫(文学部教授)
14:00～ 231教室 無料 一般 不要
地域連携推進室 0596-22-8635

23 土
佐川記念神道博物館教養講座
伊勢学事始Ⅱ
第4回「〈憲政の神〉尾崎行雄と伊勢」
講師●田浦雅徳(アドミッション・オフィス教授)
14:00～ 佐川記念神道博物館講義室
無料 一般 必要(先着順)
佐川記念神道博物館 0596-22-6471

12月

14 土
月例文化講座
即位礼と大嘗祭の歴史と文学
「恵み豊かな年を顧みて」
講師●河野　訓(学長)
14:00～ 431教室 無料 一般 不要
地域連携推進室 0596-22-8635

近鉄文化サロン阿倍野 共催講座

会場●近鉄文化サロン阿倍野

詳細は近鉄文化サロン阿倍野(06-6625-1771)へお問い合わせください。 有料・要予約

9/28(土) 15:30～
1日・短期講習会 **皇室の基礎知識Ⅲ**
元号の歴史と意義 講師●松本 丘(文学部教授)

人事異動

令和元年7月1日付

配置換

財務部(管財担当)主事　小瀬古 学
(学生支援部(入試担当)主事)
学生支援部(入試担当)主事　川合 一禎
(財務部(管財担当)主事)
企画部(地域連携推進室)主査　程野 晶子
(学生支援部(教務担当)主査)
学生支援部(教務担当)主査　梅川 紗綾
(企画部(地域連携推進室)主査)

Information インフォメーション

平成30年度 収支決算報告

学校法人皇學館の平成30年度決算は、令和元年5月29日㈬開催の理事会で承認されましたので、ここにその内容を報告致します。

なお、公式ホームページの大学概要のIR情報「事業報告平成30年度」にて、教育研究機関・学校法人の組織機構・入学生数・在籍者数・卒業生数・進路(就職)状況及び法人の事業実績、財務の概要説明等を公表しておりますので、併せてご覧ください。

〔公式ホームページ　http://www.kogakkan-u.ac.jp〕

平成30年度収支決算書は以下のとおりです。

1 資金収支計算書

この計算書は、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に近いもので、当該会計年度の教育研究活動及びその活動に付随する全ての資金の動きと内容を明らかにすることを目的としています。

資金収支計算書(法人全体)

平成30年4月1日～平成31年3月31日　単位：千円

科　目	予　算	決　算	差　異
●収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,923,502	3,926,450	△2,948
手数料収入	73,876	78,549	△4,673
寄付金収入	113,434	110,815	2,618
補助金収入	597,601	644,579	△46,978
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	36,080	39,097	△3,017
受取利息・配当金収入	8,939	12,971	△4,032
雑収入	316,641	339,096	△22,455
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	633,202	712,802	△79,600
その他の収入	500,783	514,426	△13,643
資金収入調整勘定	△915,861	△938,687	22,826
当年度資金収入合計 ①	**5,288,197**	**5,440,102**	**△151,905**
前年度繰越支払資金	2,110,314	2,110,314	
収入の部合計	**7,398,511**	**7,550,417**	**△151,905**
●支出の部			
人件費支出	2,992,628	2,961,328	31,299
教育研究経費支出	1,060,904	1,063,575	△2,671
管理経費支出	446,398	426,892	19,505
借入金等利息支出	482	481	1
借入金等返済支出	43,750	43,750	0
施設関係支出	362,385	369,772	△7,387
設備関係支出	258,941	210,641	48,299
資産運用支出	323,554	334,796	△11,242
その他の支出	118,279	118,559	△279
［予備費］	(0) 20,000		20,000
資金支出調整勘定	△60,007	△68,751	8,744
当年度資金支出合計 ②	**5,567,314**	**5,461,045**	**106,270**
翌年度繰越支払資金	1,831,197	2,089,372	△258,175
支出の部合計	**7,398,511**	**7,550,417**	**△151,905**
当年度資金収支差額 ①－②	**△279,117**	**△20,943**	**△258,175**

【注1】記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。
【注2】貸借対照表の注記は省略しています。

2 事業活動収支計算書

この計算書は、企業会計における損益計算書にあたるもので、学園の経営状況を表し、平成30年度における事業活動収支の均衡状況とその内容を明らかにするものです。事業活動収支を「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」に区分し、企業会計により近い形式となっています。

事業活動収支計算書(法人全体)

平成30年4月1日～平成31年3月31日　単位：千円

		科　目	予　算	決　算	差　異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,923,502	3,926,450	△2,948
		手数料	73,876	78,549	△4,673
		寄付金	83,434	81,559	1,874
		経常費等補助金	574,790	621,849	△47,059
		付随事業収入	36,080	40,083	△4,003
		雑収入	329,684	350,764	△21,080
		教育活動収入計	**5,021,366**	**5,099,257**	**△77,891**
	事業活動支出の部	人件費 (退職給与引当金繰入額)	2,869,251 (25,551)	2,832,578 (33,712)	36,672 (△8,161)
		教育研究経費 (減価償却額)	1,589,065 (528,161)	1,623,581 (559,262)	△34,516 (△31,101)
		管理経費 (減価償却額)	484,746 (38,348)	466,488 (39,595)	18,257 (△1,247)
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	**4,943,062**	**4,922,648**	**20,413**
		教育活動収支差額	**78,304**	**176,608**	**△98,304**
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	8,939	12,971	△4,032
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	**8,939**	**12,971**	**△4,032**
	事業活動支出の部	借入金等利息	482	481	1
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	**482**	**481**	**1**
		教育活動外収支差額	**8,457**	**12,489**	**△4,032**
経常収支差額			**86,761**	**189,098**	**△102,337**
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	62,811	64,805	△1,994
		特別収入計	**62,811**	**64,805**	**△1,994**
	事業活動支出の部	資産処分差額	40,209	40,209	0
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	**40,209**	**40,209**	**0**
		特別収支差額	**22,602**	**24,595**	**△1,993**
［予備費］			(0) 20,000		20,000
基本金組入前当年度収支差額			**89,363**	**213,693**	**△124,330**
基本金組入額合計			△387,238	△358,401	△28,836
当年度収支差額			△297,875	△144,708	△153,166
前年度繰越収支差額			△3,480,187	△3,480,187	0
基本金取崩額			0	0	0
翌年度繰越収支差額			△3,778,062	△3,624,895	△153,166
【参考】					
事業活動収入計			**5,093,116**	**5,177,033**	**△83,917**
事業活動支出計(予備費含む)			**5,003,753**	**4,963,340**	**40,412**

3 貸借対照表

この計算書は、決算日における資産及び負債、純資産の内容及び在り高を明示し、学校法人の財政状態を明らかにすることを目的としています。固定資産については、「有形固定資産」「特定資産」「その他の固定資産」の3つの中科目を設けて表記しています。

貸借対照表

平成31年3月31日　単位：千円

科　目	本年度末	前年度末	増　減
●資産の部			
固定資産	**16,671,039**	**16,742,918**	**△71,878**
有形固定資産	**12,068,807**	**12,115,388**	**△46,580**
土地	551,349	551,349	0
建物	8,173,083	8,271,759	△98,676
構築物	618,732	533,567	85,165
教育研究用機器備品	623,595	646,183	△22,588
管理用機器備品	75,401	104,398	△28,997
図書	1,981,577	1,960,858	20,719
車両	45,067	47,270	△2,203
特定資産	**4,567,745**	**4,587,738**	**△19,993**
第3号基本金引当特定資産	148,040	140,040	8,000
退職給与引当特定資産	1,233,365	1,233,365	0
施設維持引当特定資産	1,628,674	1,628,674	0
学園財政調整引当特定資産	1,000,000	900,000	100,000
学生寮施設維持引当特定資産	2,502	128,426	△125,924
教学振興基金引当特定資産	150,000	150,000	0
篠田学術振興基金引当特定資産	72,210	73,176	△965
津田学術振興基金引当特定資産	319,272	317,505	1,766
奨学金引当特定資産	13,680	16,549	△2,869
その他の固定資産	**34,486**	**39,791**	**△5,305**
電話加入権	3,959	3,959	0
有価証券	9,596	9,596	0
敷金	0	5,620	△5,620
差入保証金	5,016	5,016	0
預託金	10,000	10,000	0
長期未収入金	2,400	3,000	△600
長期貸付金	3,515	2,600	915
流動資産	**2,745,950**	**2,733,017**	**12,933**
現金預金	2,089,372	2,110,314	△20,942
補助活動支払資金	336,074	330,001	6,072
研修旅行費等預り資産	137,850	130,521	7,328
未収入金	177,200	158,088	19,111
販売用品	4,513	3,527	986
短期貸付金	640	400	240
立替金	299	156	143
前払金	0	7	△7
資産の部合計	**19,416,989**	**19,475,935**	**△58,945**
●負債の部			
固定負債	**1,029,394**	**1,200,664**	**△171,269**
退職給与引当金	998,067	1,138,484	△140,417
長期未払金	31,327	62,179	△30,852
流動負債	**1,045,579**	**1,146,949**	**△101,369**
短期借入金	0	43,750	△43,750
未払金	99,596	115,603	△16,007
前受金	712,802	762,087	△49,284
預り金	233,180	225,508	7,672
負債の部合計	**2,074,974**	**2,347,613**	**△272,638**
●純資産の部			
基本金	**20,966,910**	**20,608,508**	**358,401**
第1号基本金	20,488,870	20,138,468	350,401
第3号基本金	148,040	140,040	8,000
第4号基本金	330,000	330,000	0
繰越収支差額	**△3,624,895**	**△3,480,187**	**△144,708**
翌年度繰越収支差額	△3,624,895	△3,480,187	△144,708
純資産の部合計	**17,342,015**	**17,128,321**	**213,693**
負債及び純資産の部合計	**19,416,989**	**19,475,935**	**△58,945**

教学振興会 平成30年度 決算報告

ご 挨 拶

学校法人皇學館 理事長　佐 古 一 洌

平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。

さて、教学振興会につきましては、多くの方々のご入会、ご支援をいただき、改めまして心から厚く御礼申し上げます。

教学振興会支援事業は建学の精神を礎に研究・教育活動の振興・伸展に注力して参りました。平成30年度におきましてもグローバル人材の育成や国際交流の推進、「伊勢志摩定住自立圏共生学」をはじめとする地域連携活動の促進、学生・生徒の自主性・主体性を尊重した修学支援等、より充実した教育環境の整備、拡充に取り組んでおります。これも、ひとえに皆さま方のお力添えによる賜物と感謝申し上げ、更なる本学園への期待に添えるよう、鋭意努力いたす所存でございます。

ここに平成30年度の決算をご報告させていただきます。

今後とも「教学振興会」への温かいご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

教学振興会収支決算書

平成26年9月1日～平成31年3月31日

収入決算額累計(平成26年9月1日～平成31年3月31日)	**199,091,500円**
支出決算額累計(平成26年9月1日～平成31年3月31日)	**185,872,455円**
平成30年度支出決算額(平成30年4月1日～平成31年3月31日)	**64,989,613円**

●収入の部　平成31年3月31日現在

区　分	H26～28年度 寄付件数	H26～28年度 金　額(円)	H29年度 寄付件数	H29年度 金　額(円)	H30年度 寄付件数	H30年度 金　額(円)	H26～H30合計 金　額(円)
宗　教　界	672	92,790,000	243	25,280,000	221	20,165,000	138,235,000
企　業	81	5,360,000	23	1,300,000	18	1,220,000	7,880,000
館　友	957	10,736,000	451	4,397,000	434	6,451,000	21,584,000
萼の会会員	909	6,885,000	305	2,235,000	327	2,125,000	11,245,000
高等学校保護者	280	2,095,000	100	660,000	85	580,000	3,335,000
中学校保護者	108	885,000	26	305,000	24	240,000	1,430,000
一　般(篤志家等)	22	3,715,000	4	45,000	4	165,000	3,925,000
教　職　員	509	6,900,000	203	2,360,000	187	2,197,500	11,457,500
合　計	**3,538**	**129,366,000**	**1,355**	**36,582,000**	**1,300**	**33,143,500**	**199,091,500**

※日本私立学校振興・共済事業団 受配者指定寄付金金額を含む。

●支出の部　平成30年4月1日～平成31年3月31日

区　分	金　額(円)
❶建学の精神を活かした研究活動の振興と教育の質の改善と保証	**4,006,086**
❷神宮並びに神道研究の情報拠点の形成	**1,348,218**
●神宮、神道に関する文献資料の収集整理	1,348,218
❸国際交流の推進と日本文化発信人材の育成	**37,670,721**
●学生・生徒の海外留学に対する助成	30,391,696
●国際交流協定大学等との交流事業に対する助成	2,052,329
●外国人留学生に対する奨学援助	5,226,696
❹地域社会貢献活動と伝統文化継承人材の育成	**5,454,918**
●学生・生徒の社会貢献活動に対する助成	469,075
●「伊勢志摩定住自立圏共生学」教育プログラムによる地域貢献人材の育成	3,750,833
●地域社会貢献組織の整備に対する助成	1,235,010
❺学生・生徒の修学支援	**16,509,670**
●学生・生徒に対する奨学援助	8,000,000
●学修(習)奨励や課外活動等への助成	8,509,670
合　計	**64,989,613**

アクティブ・スチューデント Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

福島怜奈（教１）さんが インドネシアでバレエを披露

教育学科１年の福島怜奈さんが平成31年４月30日にインドネシア・バリ島で開催されたバレエフェスティバルにゲスト・ダンサーとして出演。華麗な演舞を披露した。

福島さんは昨年行われた「ジャパンバレエコンペティション兵庫2018」で審査員特別賞を受賞し、同フェスティバルへの参加権を得た。130名を超えるインドネシアのバレリーナたちと競演した福島さんは、「日本ではないような声援や拍手のおかげでいつも以上にモチベーションが上がり、特別な世界観を味わえました」と初めての海外公演を振り返った。

貴重な経験になったと福島さん（左端）

３歳でバレエを始めた福島さん。「美しい音楽や言葉では表せない感情を体全身で表現できるのがバレエの魅力。諦めず、日々努力する大切さも学ぶことができました」と語る。将来はバレエを通して身につけた精神力や体力を生かし、小学校教員をめざすそうだ。

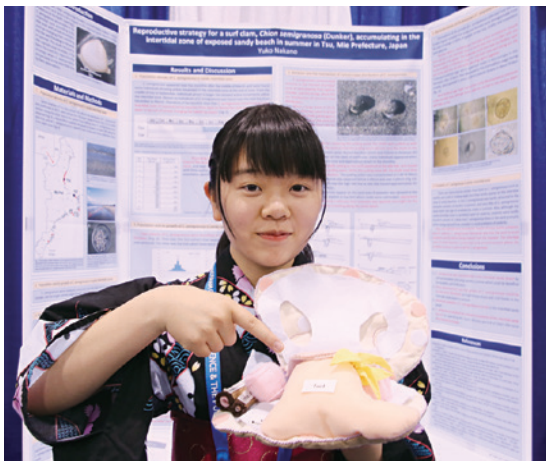
奥谷行宏（現４）さんが大学野球・県リーグで 個人４冠。働きながらプロをめざす

現代日本社会学科４年の奥谷行宏さんが今春の大学野球三重県リーグで最優秀選手賞・本塁打王・盗塁王・ベストナイン（外野手）と４つの個人タイトルを獲得した。２度目の全国大会出場をかけ臨んだ東海地区春季選手権大会では準優勝とあと一歩及ばなかったものの、その悔しさを秋季リーグ戦にぶつける。

８月21日に開催された対中日ドラゴンズ戦では東海地区大学野球連盟選抜チームメンバーとして活躍

野球を始めたのは中学生になってから。レギュラーを経験者が占め試合に出られない日々が続いたことで生来の〝負けず嫌い〟に火が付いた。こつこつ練習を重ねいつしかチームを引っ張る存在に。本学に入学後はウエイトトレーニングに励み、現在、身長179センチ、体重81キロ。森本進監督の「礼儀や挨拶、身だしなみから試合は始まっている」との教えを胸に、心身を磨く毎日だ。座右の銘は「努力に勝る天才なし」。JR西日本に内定しており、社会人野球選手として活動しながらプロ入りをめざす。

高校・中野優子さんが 貝の研究で世界最大の科学コンテストに出場


日本代表として発表する中野さん
画像提供：NPO法人日本サイエンスサービス

皇學館高校１年の中野優子さんが５月にアメリカ・アリゾナ州で開催された世界最大の科学コンテスト「インテル国際学生科学技術フェア（Intel ISEF 2019）」に日本代表として派遣され、フジノハナガイの繁殖戦略について英語でプレゼンテーションした。今回の出場は、中野さんの中学時代の研究作品「砂浜でみつけた小さなサーファー」が第62回日本学生科学賞・中学の部で内閣総理大臣賞に輝いたことを受けて。中野さんは「この賞をとることが夢だったので本当に嬉しかった」と喜びを語る。

フジノハナガイに興味を持ったきっかけについて「海辺を歩いていた時、砂の中から一斉に貝が現れ、潜ったりする行動を見て不思議に思った」と中野さん。「まだ解明されていないことを研究、観察するのがとても楽しい」とも話し、将来は今回の経験を生かし、理科系の仕事に就けたらと目標を語った。

創部以来の快挙！ 高校弓道部女子団体が全国総体に初出場

皇學館高校・弓道部女子団体が三重県高校総体で初優勝！８月に宮崎県で開催された全国高校総体（インターハイ）に心一つに臨んだ。

５人一組となり、各々が決められた射数で弓を引く。一見個人プレーのようだが、「団体戦は連続で中（あ）てて流れをつくっていく横のつながりが大事。誰かが外したら自分が中てる、自分が外しても誰かが中ててくれる。常にひとりじゃないと感じる、絆の深さが私たちの強み」と主将の竹内那奈さん（３年）は自負する。顧問の先生も「みんな仲が良く前向き。教えるまでもなく内面がきちんとしている」と評価。その上で、射形が美しくかつ、確実に中てる皇學館らしい〝魅せる武道〟をめざしてほしいと期待を込めた。

左から前田さん、江尻さん、野中さん、北山さん、上村さん、竹内さん

全国高校総体では決勝トーナメントへの進出はかなわなかったが、令和元年の節目に新たな歴史を作った弓道部女子団体。今後の活躍に注目だ。

東海総体・陸上競技男子八種 高校・大井悠さんが大会新で初優勝

６月21日から23日にかけて静岡で開催された東海高校総体・陸上競技男子八種で大井悠さん（３年）が大会新記録の5802点で初優勝。２位に457点差をつける圧巻の内容で、昨年に続き２度目の全国高校総体出場を果たした。

躍進の原動力は、去年初出場した全国高校総体だ。上位選手の意識の高さや15位という結果に、「これくらいでいいか」という気持ちで練習していた自身の甘さに気付いた。以来、どんなメニューも最後までしっかりこなし、この東海総体では「走幅跳」「400m」「走高跳」で１位をマーク。県総体で記録なしだった「砲丸投」でも加点し、自己ベストだけでなく、県高校記録（5759点）の更新にも成功した。満を持して出場した今回の全国高校総体（８月４日・５日）は惜しくも４位。昨年の15位からすると大躍進だが、本人いわく「納得はしていない」。目標はあくまでも「日本一」と意気込む大井さん。さらなる飛躍が楽しみだ。

全国４位に入賞した大井さん

「すべての種目でしっかり結果を残し、6000点台を出すのが目標」と意気込む大井さん